

## 最近のトピックス

## 精薄児の歯科治療への適応性

——とくに健常児との違い——

新潟大学歯学部小児歯科学教室

田口 洋・野田 忠

心身障害者の多くは脳の器質的障害、あるいは本疾患に起因する二次的な脳の機能的障害によって、何らかの形で知能遅延があり、歯科治療への適応性が低く円滑な治療を進めていく上での障害となり、一般の歯科医療から敬遠されている。

しかし低年齢小児の歯科治療と同じように、適応性が低いというだけであって、適応していくことができるのであれば、一般の歯科医も積極的に治療に参加すべきだと思われる。我々は新潟県心身障害児者総合施設において、知能指数の測定さえできないような知能遅延をもった精薄児の歯科治療を実際に行い、彼らも立派に歯科治療に適応していくことを観察したので<sup>1)</sup>、その結果より、精薄児の歯科治療への適応性について考えてみたい。

表の左端に示すように、入室から退室までを7つの状

表1 精薄児の歯科治療への適応性向上程度

	治療時	定診 1	定診 2
待合場所から入口まで	46%	59%	67%
入口から治療台まで	52	58	61
治療台に寝て抑制するまで	85	96	88
局所麻酔	90	100	100
切削・断髄・抜歯	60	76	78
歯冠修復処置	57	73	89
終了から退室まで	36	59	60

況に分け、各々の状況下で精薄児の示す反応を、協力的、普通、非協力的のうち1つに判定し分類した。治療開始時を基準にし、全齲蝕歯の治療終了時と2回の定期診査治療時に、治療に対する適応性が向上した精薄児の割合を算出した。表はそのまとめであり、治療回数を重ねるにつれてどの状況下においても、精薄児が次第に歯科治療に慣れ協力度を向上させていった様子をあらわしている。

こうした精薄児の歯科治療への適応性向上という事実も、それまでの報告にはみられなかった意義深い知見だと考えられるが、さらに興味深い事実がみられた。7つの状況下全てにおいて、彼らは適応性を向上させてはいるものの、その割合にはかなりの差が認められる。すなわち、治療台に寝て特別の抑制具で固定され確実に痛みを伴う浸麻をされるといった、健常児であれば最高に拒否反応を示すであろう状況下において、精薄児は最高に適応性を向上させた。また適応性を向上させた者の数が多いだけでなく、そういった状況下では初めから協力度良好な者の数も、他の状況下に比してかなり多くみられ

た。

健常児について歯科治療への適応性を観察した報告<sup>2)</sup>では、浸麻時が最も適応性が低く、その後切削、充填、修復と処置が進むにつれて、次第に適応性が良好になる傾向があったとしている。我々の観察では、精薄児は反対に、浸麻時には協力的であってもその後の処置時には非協力的になってしまう者が多く、また、表に示されるように、適応性を向上させた者の割合も、切削、充填、歯冠修復時の方が、抑制、浸麻時よりも明らかに少ない。このことは、歯科治療への適応性と知能との間に何らかの関連があることを疑わせるが、さらに興味ある事実がある。

我々が観察した39人の精薄児の中には、I. Q. 20前後ではあるが11人の知能指数測定可能者が混在していた。その知能指数測定可能者に注意してみると、彼らは健常児と極めて類似した反応を示していた。すなわち、抑制、浸麻時には協力的な者の中に占める彼らの割合は少ないのに対し、切削、歯冠修復時には反対に協力的な者の中に占める彼らの割合が極めて高くなっている。特に歯冠修復時には、非協力的な者はすべて知能指数測定不可能な者だけであり、知能指数測定可能の者はその中に1人もいない。

反面入退室時に示す精薄児の反応は、健常児とよく似ていた。適応性の向上を示す割合は他の状況下よりも少なく、入室時、退室時共に似ているようではあるが、その内容をみてみると、入室時には泣き叫び暴れる非協力的な者の数が初めから最後まで相当数いるのに比べ、退室時にはその数は少ない。つまり適応性がそれほど高率によくなれないという点では類似しているが、入室時よりも退室時の方が適応性としては良好な傾向を示していると考えられる。これは普通の小児で観察した報告<sup>3)</sup>と同様の傾向であり、精薄児の中での知能指数測定可能者とそうでない者との間での差も認められない。

精薄児の歯科治療は、知能レベルに合せた取扱い方を配慮することにより、知能指数が測定不能やごく低い精薄児であっても、歯科治療に適応してくる。

## 文 献

- 1) 田口 洋ほか：新潟県心身障害児者総合施設における精神薄弱児の歯科治療と歯科治療への適応性について。新潟歯学会誌，13：71-78，1983.
- 2) Ripa, L. W.: Children's reactions to the dental experience. In management of dental behavior in children, eds., Ripa, W. R. and Barenie, J. T., P. 1-14, PSG Publishing CO., Littleton, Massachusetts, 1979.
- 3) 高橋 実ほか：歯科診療室に入室する際の小児患者の情動変化。第3報。小児歯誌，21：585，1983.